

随 想

若い技術者におくる書簡

佐藤 知 雄*



産業界の盛況によつて、あたかも花婿が迎えられるような歓迎をもつて、実業界、学界に入った諸君は、学校を出てから数か月ないし数年の間、学園における学生生活とは全く異つた環境におかれて、何を感じ何を学びとられたでしょうか。私はまずそれが知りたいのですが、今日は先輩として私の言葉を諸君におくることにしました。

諸君は父兄母姉や多くの知人、先生方の祝福を受けながら、生涯において稀れにみる幸福感にひたつて卒業式をすませたのは、つい先頃のように感じておられるでしょうが、光陰は矢の如く飛び去つて、すでにそれは過去の思い出となつていくことと思います。うかうかしていると、それは私のように古い思い出となる日がくるのです。わが国では学校の課程を卒える式のことを卒業式といっています。そして工科の大学課程を卒えた人は一応学問、技術について、さらには教養において一人前となつた者として認められることを保証されるであります。ところが欧米における修了式は“コンメンメント”と称されております。コンメンメントとは“これから始める”という意味でありまして、わが国の“卒える”とは全く逆の表現になつておるのです。これは真に味うべき言葉であると考えます。

日本人の中には、大学卒業をもつて学問の卒業と考えているものが少なくありません。しかし大学の課程を終つたことは、学問への第一歩を踏み入れたことに過ぎないのでありまして、真理への道は無限に続き、一步一步困難な扉を開いて前進すべき使命が、若い技術者諸君を待っているのであります。諸君は今や人類の福祉と世界の平和に貢献する技術の開拓と、学問の研究のスタートライン上に立つていると言えましょう。私は諸君が真理を探究せんとする高い理想と意慾をもつて、生涯を通じてひるむことなく勇敢に前進されるように希望致します。

“これから始める”のは単に学問と技術の道ばかりではありません。社会人としての諸君はまだまだ年齒が若いと思います。現代の社会はその進歩の速さにおいて、またその機構の複雑さにおいて過去の社会の比ではありません。最近 10 年間の世界の動きは過去 100 年の動き以上の変化を遂げたと言われている。このような激しい社会の変動に対処して、個人個人がこれに適応して前進することは容易なことではありません。進歩と適応という問題が社会人としての諸君にその解決を迫つております。

次ぎに考えてみたい問題は、現代における組織と個人との関係であります。諸君がおられる職場が、企業体であれ、あるいは公共機関であれ、いずれも社会における一組織であります。社会人とは、人が何等かの組織体に参加してその一員となつていることを意味します。しかるに現代の組織体はいずれの企業においても、その生産性を高め、あるいは業務の能率向上をはかるために、必然的に専門分野への細分化と、組織自体の巨大化の方向へ進まざるを得ないのです。この巨大な組織の中にあつて、細分された個人の働く分野は、あたかも巨大な歯車の一片の歯の如きものに過ぎないと思います。ここにおいて

* 本会副会長、東海支部長、名古屋工業大学学長 工博

諸君は、自分の仕事や使命について、時に疑惑の念にかられる危険があります。自己の現実に受持つている仕事の微小さに対する幻滅の悲哀は、学園に在りし日に諸君が抱いていた理想が高ければ高いほど大きいものと考えます。諸君はこのようなときに、組織の中に埋没して自己を見失うことのないように、常に理想の峰を高く望んで前進されるよう願つて止みません。

個性や人間性の確立にとつて困難な現代の状況は、以上の事実のみに限りません。社会とくに日本の現状は巨大組織の対立のみならず、各種の社会集団が互に自己の主張を強く主張し合つて対立しており、日本の社会全体として見た場合、全く調和のとれない分裂状態を呈しておりますことは、真に憂うべき現象だと思ひます。日本の経済力は急速に強力となり、もはや“戦後に非ず”とよく言われます。実際どこの生産工場を見学しましても、その著しい改善と素晴らしい設備の拡張は私どもを驚かさせず。しかしわが国の精神文化の面は、いまだ戦後の混乱から脱し切れぬ状態だと私は見ております。否、むしろ時と共にその無統一、混乱が激しさを加えつつあるとも視られます。これは多くの例を挙げる必要はなく、ただ一つ安保問題だけを見ればわかることと思ひます。このような対立、無統一の社会的現状の裡にあつて、真に自己の立場を確立し、混乱の潮流に押し流されることなく、しかも自己の個性の無限の拡大と、社会の進歩に寄与することは容易なわざではありません。元来社会の進歩は常に理論化と合理性の追求に向つて動くのでありますが、過大な理論的 pursuit は必然的に微視的に物事を観察する結果となり易く、従つて社会全体を見る眼を曇らせ、人間の真の姿あるいは国の進むべき道を洞察する力を失わせるものであります。このことは一方において科学、技術の偉大な進歩がありながら、他方において現代精神文化の著しい貧困となつて現われているのであつて、ここに人類の不安、世界平和に対する恐怖の根源があることは、多くの識者の認めているところであります。

諸君はこのような困難な時代に若き技術者として立つているのでありますから、それぞれの前途について熟慮しなければなりません。私はこの際先輩として諸君の心に留めていただきたい一事を最後に書き添えたいと思ひます。それは自己の専攻する学問、技術の分野が何であつても、その道の権威者となることを期すべきであります。それぞれの分野における権威者となることは、単に権威者であるばかりでなく、それに到達するための道はいずれの道を選んでも、深遠の境地に到る者は常におのおのの専門分野の狭さを超越した人生の真の姿に接し得るものであります。学者であれ、技術者であれ、実業家であれ、また芸術家であれ、それぞれの道の権威者には共通した品格を自然に備えておられるのはこのためであると考えます。

よく技術者は狭量であり、見解が狭いと言われます。これはある一面において甘受しなければならぬ誹でありますから、この点に特に留意して豊かな教養と優れた人生観、社会観をもつものとならねばなりません。

私は先輩として日頃考えていたことを、僅かな紙面をいただいて若い技術者である諸君に書き送りました。どうぞ呉々も健康に留意し、自重自愛、以つて工業界に活躍されるよう祈つて筆をおきます。